北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

巻頭言:研究交流・実践交流を通した積極的な学びを期待して -紀要第4号の刊行に寄せて-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-07-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大久保, 和義 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9496

巻頭言

研究交流・実践交流を通した積極的な学びを期待して

― 紀要第４号の刊行に寄せて ―

大久保　和　義*

中央教育審議会から平成24年８月28日に出された『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』の答申で、「教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である。」（学び続ける教員像）と述べられています。学校現場での諸課題の高度化・複雑化に迅速に対応して解決する力、教科や教職に関する高度な専門的知識、新たな学びを展開できる実践的指導力を身につけ、授業を展開することによって、子どもの学びが拓かれていくことになるのではないでしょうか。

第４号のテーマは「教師の研究交流・実践交流と教師の成長」です。上で述べたような教師の授業力は、テーマに掲げられているように教師の研究交流・実践交流によって培われ、その交流の最たるものが授業研究会であり、研究団体による各種研究会だと思います。

日本ではこの種の研究会、特に学校での授業公開を通した研究会が数多く行われ、教員も当たりまえにそれらの研究会に参加していますが、世界的には授業公開を通した研究会はあまり行われていませんでした。しかしながら、「日本の算数・数学教育に学べ」（スティグラー・ヒーバート著、湊三郎訳、教育出版、2002）が出版されてから、日本の授業研究は急速に世界各国で脚光を浴びています。こうした世界の動向を見据えても、私たちは授業研究を通して、よりよい授業のあり方を追求していくことが大切なことではないではないでしょうか。院生の皆さんも、積極的に授業研究会に参加し、そこでの交流を通して多くのことを学ばれることを期待します。

教師の研究交流・実践交流というとき、必ずしもそれが、授業研究会や各種研究会である必要はありません。大学院での講義においては、教員から理論的な内容について学んだ後での授業担当教員と院生、院生間の交流が多く設定されていますので、そこでの議論を通した学びもあるでしょう。教員、現職教員、ストレートマスター、また、小、中、高の校種を超えた、他では経験できない貴重な交流の場ですので、積極的に交流に加わって、それぞれの学びを深めてほしいと思います。

昨年末に教職大学院の講義室に行ったときに、５、６名の院生が一生懸命に議論をしていました。何をしているのかと聞いたら、「年末自主ゼミ」をやっているのだとの返事。講義等での学びももちろん大切ですが、このように興味あることについて自主ゼミを開催し、そこでの交流を通して積極的に学ぼうとする姿勢が大切です。

また、今回の紀要にも書かせていただきましたが、教職大学院にとって学校における実習は大変大きな意義があります。特に２年次には、１年次での学びを通して学校課題または自己課題を設定し、その解決策を検討して実習に臨みます。実習によって院生が大きく成長していることは間違いありません。そこでの学びの意義を考えて、特にストレートマスターは実習校の指導教諭をはじめ先生方に積極的に働きかけて交流を行い、さらなる成長につなげてほしいと願うものです。

---

*北海道教育大学教職大学院（大学院教育学研究科高度教職実践専攻）札幌